



バッキンガム宮殿前を行進する近衛兵

ロンドンで流行する日本文学

ロンドンの冬の夜長に備え、久しぶりに市内の本屋をはしごしていると、行く先々であるものが目に留まりました。それは、英語に翻訳された日本の小説です。特設コーナーが設置されていて、堂々と平積みされているのです。そのうちの一冊を手にとって眺めていると、書店員さんに「It's one of my best. Must buy! (私の凄く気に入っているうちの^{オチ}一冊なの。絶対買いよ!)」と嬉しそうに声を掛けられました。なんだか、日本人としての誇らしさがこみ上げ、日本語でも読んでいないその中の数冊を脇に抱え、そのままレジに並び衝動買いしてしまいました。

その後、あの日本小説の特設コーナーは何だったのか気になり、ロンドンでの日本文学の動向について調べてみました。すると、英紙が「2022年には英国で販売された翻訳小説200万部のうち、日本の作

品が50万部弱(約25%)を占めた」と報道するなど、英国で日本小説がブームとなっていることに遅ればせながら気付いたのでした。

日本の漫画・アニメが、海外で大人気となっているのは周知の事実ですが、心理・情景をすべて言語で描写する小説というジャンルにおいて、英国人が日本の小説を面白いと感じる理由を知りたくなってきます。AI翻訳の発展が、翻訳困難な言語とされてきた日本語の英訳の壁を低くしたのかもしれませんが、凝り性な英国人氣質に特有な現象なのかもしれません。そんな理由を得る手がかりにと、ゆっくりと翻訳日本小説に浸っていると、ロンドンの長い冬は終わりを告げ、ようやく春を迎えつつあります。

(日本銀行ロンドン事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



日本小説の特設コーナーを設置するロンドンの某書店



ロンドン老舗書店でベストセラーとして並ぶ日本小説